



だより



R8.6.9 Vol.10

あるニュースを見て思うこと

父親が娘さんの胸ぐらをつかみ…そんなニュースがありました。結果として、その父親は仕事を辞することになったのですが…。家庭内での暴力や虐待は外から見えにくいからこそ、私たち学校教育に携わる人間も「子供を守る」という意識を常に持って見守っています。

しかし今回の件は、単純に「家庭内暴力」と括れるものではなかったように感じました。騒ぎが大きくなり、娘さんも戸惑っていたと報じられていました。この事件の是非を論じるつもりはありません。ただどうしても気になるのは「誰もが安易に自分の正義を振りかざせる時代になっている。」ということです。そしてそれは瞬時に勝手に動き始める。自分の意志で止めることができなくなる。そんな危険性をはらんでいます。少しでもお互いが相手の立場に想像力を働かせていれば、違った結果になっていたかもしれない。周囲が無責任な正義の剣を振り回す必要もなかったかもしれない。生成 AI も最大公約数としての模範解答ははじき出しますが、それぞれの心のひだや人情の機微まで理解した答えを出すとは私には思えません。

暴力を肯定するつもりなど一切ありません。ただルールや正義という目に見える建前だけが一瞬で独り歩きを始め、時間をかけて本音を分かちあえるはずの家族という場が揺らいでしまった出来事のように思えてなりません。

家族って何だろう、正義って何だろう、そして生成 AI とどう付き合うべきか。我々教師も、保護者の皆さんにも、そして子供たちにもしっかり考えてほしい。そんなことを考えさせられたニュースでした。

四方山話松蔭 ver. 其の十(大きな玉ねぎの下で)

先日、何となく動画を見ていたら、おススメに「大きな玉ねぎの下で」の MVが…。思わず「おおおおお～懐かしい！」とクリック。もう40年近く前の曲なので、知らない人の方が多いんでしょうね。(とはいえ今年の冬、asimiさんが歌って映画にもなったのでご存じの方ももしかして…)ー手紙だけでやり取りしている女の子を、少年が初めて会おうと「武道館ライブ」に誘い貯金をはたいてチケットを送ります。が、彼女は約束の時間になっても現れず、アンコールの中、会場を飛び出し、少年の恋は終わってしまうーこんな物語です。♪ペンフレンドの～♪で始まるこの歌。ペンフレンドなんてもう死語ですよ？でも当時はスマホどころか携帯電話もない時代。おそらく家の電話で長話していたら、親に注意されていたんでしょう。(うちは商売をしていたので、「仕事にならんやろうが!」とよく怒られました。笑)この二人はただの文通友達?いや交際してますよね、たぶん。手紙を書いて送る。届く。返事を書く。また送る。往復に一週間はかかったはずですよ。『毎日、家のポストをのぞいていたんじゃないかなあ。なんて返事が来るんだろう?授業中も上の空だったんじゃないかなあ。封を切る瞬間、わくわくどきどきしたんだろうなあ。』そんなことを想像していると、いつの間にか校長室でにやけている爺やがひとり。でもその「待つ時間」にそがいろいろな思いを育ててくれたんじゃないかな、そう感じます。SNSで瞬時にやりとりできる今、とっても便利です。私もフル活用です。ただあの時代には待つことで育つ想像力や言葉にできない何かがあったのだと思います。気付けば、自分が生きた時代がセピア色になり、古き昭和時代なんて言われ始めていることにも驚きを隠せません。ハイトーンボイス全盛の今も、すてきな歌がたくさんありますが、物語のある昭和の歌もいいですよ。時間があればぜひ聴いてみてください!「大きな玉ねぎの下で」…武道館の屋根のことですね。

----- 切り取り線 -----

便りの感想や学校への要望等ありましたら、お聞かせください。今後の学校経営・運営に役立てていきたいと思ひます。